



利根中央病院だより

きらめき



第53号
2019年 秋号

発行責任者 利根中央病院 院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

総合診療科体制について



総合診療科 科長 鈴木 諭

利根中央病院総合診療科は現在、院長を筆頭にスタッフ6名、専攻医4名の常勤医師10名と非常勤医師1名の計11名体制で日常診療を行っています。初診及び救急外来、予約外来は、それぞれの医師がシフトに従って担当しています。

予約外来は主にスタッフ医師6名で高血圧、脂質異常症、糖尿病等の一般的な慢性疾患管理に始まり、高齢者の多疾病罹患（multimorbidity）を背景とした多科併診患者の外来通院科調整や、多剤内服調整も行なっています。また、医学的問題だけではなく精神的社会的背景への対応なども行っています。

利根中央病院では従来から救急科には専任医師は

配属されておらず、平日日勤帯は救急要請事由から内科系救急と外科系救急に振り分け、診療医師は各科からの応援という形をとっています。内科系救急患者に関しては総合診療科が主な担当を行なっています。

入院に関しては2016年度より地域包括ケア病棟を開設し急性期から亜急性期、回復期、慢性期までの切れ目ない入院医療を提供する体制を整えています。総合診療科は各病期において主治医として対応できるように、上級医+専攻医+初期研修医3名1チーム構成で15名前後の受け持ち患者を担当しています。



総合診療専門研修プログラムについて

当院は日本専門医機構より総合診療専門研修プログラムに認定されており、現在、総合診療専門医を目指す専攻医4名（専攻医2年目3名、1年目1名）が日々日常診療を通じながら研鑽しています。

広大な利根沼田医療圏における唯一の総合病院として初診外来や専門外来を開設し、各医療機関からの紹介も含め多彩な症例に出会う環境が整っている当院において、commonな疾患はもちろんのこと、診断困難症例や希少疾患の診断や治療を行う機会も多くあります。また、ツツガムシ病や旅行者急性疾患など、地域特性を反映した疾患も経験する機会が

多くなっています。

中山間地域で農林水産業や観光業が主な産業の当医療圏において、受診される患者さんは地域特性に準じたさまざまな生活社会背景を背負っており、疾患面だけに着目するのではなく生活社会背景にまで目を向けられる思考と診療が必要となっています。

当院の総合診療専門研修プログラムでは、このような多様な対応が可能な医師を養成するべく、日常の診療と研修を調整するとともに、off the jobとしての学習企画の充実を図るなどの対応をとっています。また、専攻医と一部ファシリテーターの上級

医のみで行うレジデントデイを毎月開催し、専攻医のメンタルサポートとキャリア形成を支援しています。

当院は予防医療から急性期医療、地域の医療機関と連携した慢性期医療や在宅医療（訪問診療）までを担っています。ひとつの地域内で各フェーズから、一人の患者を見つめることができ、地域で生活する一人の“ひと”として患者を捉えることができるようになる医師が養成できればと考えています。

総合診療専門医とは？

総合診療専門医は、患者の特定臓器に着目するのではなく、地域に住むあらゆる年齢、性別の患者の健康問題に向き合って治療を行います。



患者を多角的に診る



家族・生活背景まで診る



地域全体を診る



訪問診療



後期レジデントデイ

高校生医師・他職種体験

7月26日に高校生医師・他職種体験2019夏を開催しました。

今年は過去最高の10名の高校生が参加してくれました。薬剤師業務見学、病理医・検査技師業務見学、消化器内科医師による胃カメラ操作体験、リハビリ室・理学療法士業務見学、オペ室見学、研修医による心肺停止時の救命処置レクチャーなど医師の業務だけではなく医師と関わる様々な職種の働き方を見学してもらいました。その中でも今年では実際のオペの現場で働く医師の姿を間近で見学することが

でき、高校生たちからは「とても貴重な経験にな



った」「もう少し見学したかった」などの感想が寄せられ、満足度の高い医師体験となったようでした。



高校生看護体験

7月25日、26日に高校生看護師体験を開催しました。毎年、利根沼田と渋川・吾妻地域を対象に行われ、今年では23名の参加がありました。入院患者さんに、手浴や足浴、洗髪を行ったり、体操やレクリエーションを通して交流を図りました。頭を洗い

終わった後に「気持ち良かったよ。ありがとう」と笑顔で言ってもらいとても嬉しい気持ちになり、やりが



いのある仕事だと思った、と感想もありました。

患者体験として車いすやストレッチャーに乗ったり、注射器を操作したりと多くの体験が取り入れられました。中でも一番の人気は、産婦人科病棟でかわいい新生児と触れ合う事で、みんな自然に優しい笑顔がこぼれました。これからも一人でも多くの学生に看護の魅力を伝えていけるように、看護体験を続けていきたいと思ひます。



第7回きらめき祭

8月25日、新病院移転4周年を記念して「きらめき祭」が開催され、約1500人が来場しました。職員・組合員さんによる出店、恒例の糖尿病教室や各診療科紹介のポスター掲示、太鼓演奏、チアリーディング、サイエンスショー、餅つき大会などの催しは大盛況。ヒーローショーの最後には来場者と職員が参加しての



フォークダンスもあり、地域とのつながりを深めることができました。



オープンホスピタルについて

「第1回リハビリオープンホスピタル」を8月3日に開催しました。

理学・作業療法、言語聴覚の学生を対象に、実際の仕事内容や、職場の雰囲気などを知ってもらい、就職活動の支援を目的に開催しました。今回第1回目となりましたが14人の学生が参加しました。

院内見学では救急外来・放射線室・手術室の奥まで見学でき現場の理解が深まりました。参加者からは「普段見られないところを見学できてよかった」「とっても満足な内容だった」などの感想（感動）がありました。

職種横断チームの紹介では糖尿病・OCT・心臓リハ・呼吸器・がんリハ等を学び、就職相談コーナーでは奨学金の説明や職員寮が紹介されました。職員との昼食懇談会では和やかな雰囲気ですれ声も響き楽しく体験できました。



きらめき トピックス

J-CIMELS公認講習会開催

7月26日、群馬大学医学部附属病院第1スキルラボセンターにて、群馬大学医学部附属病院をはじめ、県内外からの講師の先生方の協力で利根中央病院主催J-CIMELS公認講習会母体救命公認講習会ベーシックコースを開催しました。

この講習会は、分娩前後に起こりうる急変に対して、発生現場のスタッフで適切な初期対応を行うための講習です。参加者は、当院の初期研修医12名と、助産師・看護師4名で、妊産褥婦ならではの急変に対して、参加者も実際に体を動かしながら真剣にシミュレーションに参加し、ディスカッションにて学びを深めました。

実際に妊産褥婦が急変した場合、産婦人科スタッフだけでなく、他の医師や、看護師などにも協力を得なければ速やかな対応ができません。実際にこのような急変が起きた場合に速やかな対応ができるようこの研修を生かしていきたいと思います。

